

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600063		
法人名	有限会社 夢のおと		
事業所名	グループホーム明日風 (ユニット名:来楽)		
所在地	大分県臼杵市大字搔懐27番地		
自己評価作成日	平成26年10月31日	評価結果市町村受理日	平成27年2月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成26年11月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年3月1日にオープンしてまもない事業所ですが、地域密着型サービス事業所として”地域とともに”と”地域貢献”を念頭に置いています。また、入居者様においては”繋がり続ける”ことの支援。家族や友人・地域との関係性を保つための支援。グループホーム明日風便りでは、一人ひとりの家族へ2か月に1回写真つきのお便りを配布しています。遠方にお住いのご家族様へ日頃の様子等お伝えしています。また運営推進会議では毎回利用者家族のメンバーを代えて事業所の取り組みや現状の理解をいただけるようにしています。近隣の小学校との交流や地域の方の趣味の会への参加など着々と話を進めているところです。最後に入居者様の残存機能を生かした活動ができるよう取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・地域の介護や福祉の拠点となる事業所を目指し、地域役員や専門職、公共施設、行政等に積極的な働きかけを行なっている。
- ・運営推進会議に幅広い専門職や家族の参加が得られており、充実した会議が開かれている。
- ・事業所には、毎日のように家族や知人、地域の人が訪れており、事業所が地域に開かれた馴染みの場となっている。
- ・介護度の重い利用者を含め、利用者全員にトイレでの排泄支援が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	繋がり続けることを支援するために、家族・友人・地域などとの関係性が良好に保てるよう現状報告や様子が確認できるツールを活用している。	母体法人の理念を基本に、利用者支援の目標を3項目に分けて、言語化した事業所独自の理念を作成している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はまだ活発ではないが、地域の資源を活用する(商店・理髪店など)ことで地域の一員として受け入れていただけるよう努めている。	地域の介護支援の拠点として、積極的に地域に働きかけを行っている。小学校行事や地域行事の案内を受け、利用者と共に出かけている。また、事業所スペースを地域に開放し、緊急時の避難場所としての提供も申し出ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ実践はないが、キャラバンメイトによる認知症サポーター研修開催やオレンジカフェなどの集える場所作りを検討していきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回テーマを掲げて会議開催をしている。その中で出た意見を基に検索時基本情報の作成をしたり、感染対策・防災対策のマニュアル見直し等に役立てている。	幅広い専門職を含めた複数の委員の参加が得られている。また、委員の参加が得られやすいように平日の夕方からの1時間を会議に充てている。委員から多くの意見が出されており、議事録も詳細に記録されている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議出席していただきながら、事業所の実情や課題等お伝えしている。また担当者を訪ねて随時相談等が出来る関係性が築けていると評価する。	運営推進会議には、市職員、地域包括支援センター職員、市の出先機関職員の参加がある。事業所で作成した行方不明者の早期発見の取り組みの様式を市介護保険課に提供して。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に対する職員全員を対象にした研修はまだ実施できていないため、全職員が正しく理解しているとは言えない。玄関等施錠に関しては利用者様の安全性を優先した取組を行っている。	事業所内の2つのユニット間や事務所、台所など自由な行き来が、できる環境である。重要事項説明書には、身体拘束について詳細な内容説明が示されている。	事業所が交通量の多い道路に面した立地の為、共有空間から屋外へは、常に施錠されている。利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない生活空間の工夫を期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する全職員を対象にした研修は実施できていないが、事業所内での虐待に対する防止には注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する全職員を対象とした研修実施は出来ていない。活用に関しても支援実績なし。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者による契約時の説明を実施し、同意納得を得ている。不安や疑問点に関しても出来るだけ丁寧に説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の席では意見を述べる機会を作り、また日常的には玄関口にご提案箱を設置し意見要望を受け付けるようしている。	輪番制により、全家族に運営推進会議への出席を依頼している。年度末は、全家族に出席依頼を予定している。面会時や会議の場で意見や希望が寄せられており、避難経路の検討や利用者支援へ活かされている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的に職員に対する管理者による個別面接を行い、運営や業務に関する意見を聞く機会を設けている。また、内容を吟味しながら反映を心掛けている。	定期的に管理者と職員との個人面談を行い、勤務や利用者支援についての個別意見を聞く機会を設けている。開設から日が浅い為、職員間のコミュニケーションを大切に質問や提案を出しやすい雰囲気作りに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の昇給時には勤務状況や実績・貢献度などが勘案されるが、開設1年未満の事業所であるためまだ昇給実績はない。代表者による現状確認の為の巡回が行われ職場環境の整備に役立っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修情報提供や研修機会の企画などで職員育成の取り組みが行われている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	複数事業所連携研修事業等を通じて同業者との交流の機会やネットワーク作り勉強会等の機会を作っている。質の向上やモチベーションを高めるための取り組みをしている。グループホーム協会への加入も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス提供に当たっては、傾聴を実践しながら本人様の意向や意志の確認を慎重に行っていく。強要強制は行わないことで信頼関係の構築を図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接から家族に寄り添う姿勢で傾聴する。提供できること支援出来ることなど示しながら関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族が望んでいることを見極め、それを叶える為に一番有効な方法を一緒に検討していく。専門職としての持てる情報を駆使し出来るだけ負担の少ない方法を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で手伝っていただけることを探し、していただいたことに対して感謝の気持ちを表していく。お互いが助けあっているという感覚が失せないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡を密にとりながら、家族に協力していただけることを提案していく。また家族の方にも参加していただけるイベントの企画で共に支えているということを実感していただいている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	訪問希望者に対してはオープンな姿勢を取っている。記念写真撮影や面会者とのゆっくりした時間が過ごせるよう、場所の提供や円滑な会話の為に支援を行っている。	利用者への面会や手紙を受け取った際は、家族を介して相手との良好な関係が続くよう支援している。近隣の高齢者や様々な訪問者を受け入れ、地域に開かれた事業所として馴染みの場作りに貢献している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	交流が円滑に行われるように、関係性の観察を行い、席の配置や共通の会話が出来るといった投げかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了しても、相談などにはいつでも応じるようにしている。また面会にも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人一人の思いなどの把握に努めてはいるが、現実的でない場合は家族の希望や思いを重視してしまっている。	アセスメント情報は主に家族から得られている。得られた情報は、2種類の様式を用いて丁寧に記録されている。介護計画や事業所独自の支援に効果的なアセスメントの様式の改良が検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントで基本的な情報収集を行った上で、さらに日常的な会話の中で少しずつ情報量を増やしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態の把握を毎朝行い、状態によって1日の過ごし方を変えている。残存機能に対する評価等は日々の状態観察や職員からの情報で現状把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアのあり方については随時、職員からの提案を受け会議などで検討の機会を設けている。また随時関係者で検討する場合もある。介護計画に反映できるよう努めている。	家族の思いを組み入れ、利用者の心身の状況に添った介護計画を作成している。モニタリングや計画の見直しの準備をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践は総合記録表に記載している。気づきや工夫に関しては個別記録ではなく申し送りノートを活用し介護計画の見直しに役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人家族の状況、その時々生まれるニーズに対しては、関係者への連絡や面接によって十分話し合い、適切な支援ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設内の生活を安全で豊かなものとなるよう努めているが、まだ地域資源を把握し活用できるまでにはなっていない。今後の課題として検討中。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医との連携は円滑に行えていると評価している。定期的な往診や緊急時の相談、随時の受診支援など家族との連携も含め適切な医療を受けられるよう努めている。	利用者、家族の希望の掛かりつけ医となっている。受診は家族対応を基本としている。精神科受診時は、症状や変化を記載した情報提供表を持参している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職としての配置はないが、准看護師の有資格者がいることで体調管理やかかりつけ医との相談など適切な対処に繋がっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院・退院時の医療機関との情報交換は円滑に行えている。日常的に医療機関との関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方については、入居前の相談面接で意向を伺っている。実際その時期になった時には随時確認を取り合いながら適切な支援ができるよう努めている。地域関係者とチームで支援を行った実績は無い。	常時、医療処置や治療が必要となれば、入院や住み替えを提案し、支援している。利用者、家族の希望があれば、心身の状況や思いを確認しながら、重度化支援を行う方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	対応の方法については職員対象に伝達をしている。また事業所の分かりやすい場所に手順を書いた表を設置している。年2回ほどの研修を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防火避難訓練はこれまで1回実施。年2回の実施を行う予定。地域との協力体制作りは今後の課題としている。	消防署立ち会いの下、避難誘導訓練を行っている。避難誘導の時間測定をしたり、避難経路の変更を検討するなど、実践的な訓練が行われている。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況		実践状況	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格尊重した言葉かけに関しては、フレンドリーになり過ぎた言葉かけもある。親しみを込めた言葉かけの中にも敬う気持ちを忘れないようにと呼びかけているが、言葉かけに関しては課題が多いと評価する。	利用者のプライドを傷つけない声掛けに努めている。職員間での気づきには、個別に注意し合っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何事もまず本人様への意志確認を重視している。簡単な意思決定が出来るものに関しては意向を確認させていただいている。思いや希望を表すことができるよう日常会話がゆっくりとできる時間作りが課題となっている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	イベント参加や外出などに関しては、本人様の意向を確認している。閉じこもり気味の方に関しては少し積極的にお誘いをしている。希望に沿った支援をしたいが、機能低下が顕著な場合希望に添えないことも多い。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	口腔ケア・整容・更衣に関しては毎日きちんとできるよう支援出来ていると評価する。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来る力のある方には役割を持っていただきお手伝いして頂いているが、毎食の一緒に準備などすることはできていない。	毎食、利用者の希望や職員のアイデアに満ちた献立が立てられ、手作りの食事が作られている。家族と外食を楽しんだり、花見、誕生会、敬老会などの行事食を利用者、職員と共に楽しむ工夫が行われている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	総合記録表に食事や水分などの摂取量が記録されている。状態や嗜好により他者と変えて提供し摂取量の確保に努めている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	1日3回口腔ケアの介助や声掛けを実践している。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄リズムを把握することで、トイレへの声掛けのタイミングや失敗しない為の工夫など職員間で検討している。	日々の記録をもとに、排泄パターンを把握し、個々の利用者に応じた対応での排泄支援を行っている。介護度4、5の利用者を含め、利用者全員にトイレでの排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を作成しており、便秘への注意を払っている。ヨーグルトの提供や水分量の調整・服薬支援など個別対応実施している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は14:30～夕食前まで予定表を作って入浴していただいているが、個別対応で毎日声掛けして入浴していただいている方もいる。予定日でなくても入浴希望が強い方には随時対応しているが、時間帯は概ね決めている。	週3～4回の入浴となっている。入浴を嫌がる利用者には声掛けの工夫を行っている。毎日繰り返し声掛けすることで、自らの意志で毎日入浴する習慣になった利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	いつでも自由に休むことはできるよう支援はできている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルの中に服薬情報を入れており、各自確認ができる状況にしているが、薬に関する関心度には個人差があり全員が理解をしているとは言い難い。特に服薬状況に変化のあった分に対しては申し送りノートを活用している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来るだけ充実した日々が過ごせるようにと、その方の生活歴などを参考にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの希望に沿った外出支援はできていない。本人様の希望を把握するようには努めているが、どのような形で実現するかなど個別の対応はできていない。	買い物やドライブなどの個別での外出支援が行われている。事業所の共有空間の中庭を活用し、日常的に外気を体感する事ができている。全体での紅葉狩りの計画が立てられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出や買い物ドライブなどではこずかい程度のお金を所持していただき、自由に買い物をしていただくことがある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は希望により取次の形で利用していたている。手紙のやり取りは受け取ることはあるが返事を出すことはできていない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、居心地の良い空間となるよう配慮している。	共有空間を清潔安全に保つよう、日常的にモップ掛けやぞうきがけを行っている。換気や加湿器の利用で感染対策が行われている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	2~3人掛けのソファや掘炬燵を設置して思い思いに過ごせる場所作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具等を持ち込めるようにしている。写真や絵画・観葉植物などでもその方らしい部屋にしていただき、落ち着いた環境への配慮に努めている。	職員が、2日に1度の居室掃除を行い、利用者が落ち着いて過ごせるよう、家族に協力依頼や説明を行い支援に努めている。面会に訪れた知人や家族と居室で、ゆったり過ごせるよう配慮が行われている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンを中央部に配置いつでも手伝っていただけるようにしている。トイレの表示や中庭の設置で一人ひとりの力を活かせる環境作りに努めている。		